

**仕入及び商品開発担当者
の方にご案内下さい**

平成30年6月吉日

会 員 各 位

一般社団法人日本惣菜協会
会長 佐藤 総一郎

青森県産地見学・商談交流会開催のご案内

《平成30年7月18日(水)・19日(木)》

ー青森県業務用野菜産地からの仕入・調達のヒントー

ー青森県近海水産物の外食向け加工・流通の提案ー

協会では、外食・中食産業と農畜水産業との取組みを積極的に推進するため、定期的に農業現場や産地での交流会を実施しております。

さて、今年度第1回目となる産地見学交流会は、豊かな水産資源と冷涼な気候と丘陵地の立地特性を活用し、特色ある農業を推進する青森県において開催致します。

土作りを重視した「長いも」「にんにく」「ごぼう」「ねぎ」「だいこん」のほかに、水耕栽培による葉物野菜等の大産地である十和田市、おいらせ町、三沢市をはじめ、全国に先駆けて「ほたて」のトレーサビリティシステムを導入した野辺地町、全国有数の生産量を誇るしじみ、シラウオ、ワカサギ等の魚貝類が水揚げされる小川原湖、さらには水産物の加工業務用対応では全国でも高い実績を持つ八戸地域等、それぞれ特色のある産地の訪問や交流を通して外食・中食産業の仕入・調達のヒントとします。

訪問先は、日頃から農業経営に意欲的に取組む生産者・グループ等で、外食・中食企業をはじめ各流通分野との新たな取組みを目指しています。

ご多用中とは存じますが、外食・中食産業の仕入及び商品開発責任者の皆様にとりまして大変参考となる有意義な機会ですので、万障お繰り合わせの上、ご参加賜りますようお願い申し上げます。

なお、今回の産地見学・商談交流会は、農水省の6次産業化サポート事業として、(一社)日本フードサービス協会との共催の下、青森県農林水産部及び県内の農林水産業関係団体等の全面協力により実施致します。

記

1. スケジュール及び内容 (予定)

【第1日目 7月18日(水)】

集合・出発予定 7月18日(水) JR八戸駅 西口改札 11:30

(集合場所の詳細はお申込頂いた方に後日、追ってご連絡します。)

※東京方面から、JR東北新幹線(はやぶさ7号)東京8:40発 八戸11:26着

※大阪方面から、新大阪駅6:03発(のぞみ202号)東京8:26着 ~ 八戸11:26着

伊丹空港(大阪)8:05発(JAL2201便)仙台空港9:15着 空港7th線 仙台9:57着

⇒JR東北新幹線(はやぶさ7号)仙台10:16発 八戸11:26着

解散予定 7月19日(木) JR七戸十和田駅 12:40

※JR東北新幹線(はやぶさ20号)七戸十和田12:54発 東京16:04着

11:30 昼食(きざん八戸)

13:00 十和田・おいらせ・三沢地域の生産圃場(にんにく・だいこん・ごぼう等)視察

◇(有)柏崎青果

平成3年設立。生産・加工・流通の一貫体制を確立し、年間約3,500トンの長芋を生産、販売している。また、業務用に対応した黒にんにく、ながいも及びごぼうの真空パック、にんにくのネット詰め、乾燥チップ等の各種乾燥野菜などの加工事業を展開することで、販路を拡大している。特に、約20年前から農産物の海外輸出を強化し、着実な実績を上げる一方、平成27年からは黒にんにくの海外販路をさらに開拓するため、「黒にんにくサミット」を開催する等、黒にんにくの知名度を世界ブランドに向上させるための取り組みを実践している。

◇JA十和田おいらせ

2010年に4農協が合併して設立。十和田市、むつ市、おいらせ町、七戸町の一部、東北町の一部、大間町、横浜町、佐井村、風間浦村、東通村の2市5町3村からなり、組合員約1万2千人。販売高全体の5割を野菜類が占めるほか、米・穀類、畜産の多様な生産拡大を図っている。特に、約2,000名の生産者からなる野菜部会では、圃場別土壌診断、計画的な施肥設計、出荷前の糖度・硝酸値の測定等を徹底することにより、日持ちの良い甘みのある「十和田ミネラル野菜(TOM-VEGE): トムベジ」(果菜類・・トマト、ピーマン、きゅうり 葉菜類・・にんにく、ねぎ、いんげん、キャベツ、春菊、ほうれんそう 根菜類・・ごぼう、長いも、だいこん、にんじん)のブランド化を推進。現在、同管内の野菜生産面積は約2054ヘクタール(うち、ミネラル野菜478ヘクタール)に達し、市場及び業務筋からのニーズも高い。

◇(有)種市水耕農場

「沢山のお客様に喜んでもらえる商品作り」をコンセプトに、安全で美味しい野菜の生産を行っている。栽培面積計6500坪、12棟のビニールハウスで葉物野菜の水耕栽培を行う。ベビーリーフを始め、ハーブ類、サンチュ、サラダ菜など約20種類を栽培。衛生管理を徹底しているほか、品目ごとにハウスを区分し、それぞれの野菜に適した環境で栽培を行っている。外食・中食を含めた業務用食材として注目される多くの品目を持つ。

17:30 青森県の商品プレゼンテーション／各種試食検討会

外食・中食産業と生産者等との交流会(場所:八戸プラザホテル)

外食・中食事業者との取り組みに意欲的な県内のJA、生産者、農業法人、食品企業等約20社・団体の出展を予定。それぞれ特色ある、自慢の農産物や加工食品等を紹介する商談交流会を行う。また、青森県生産者、食品事業者との連携を図ることを目的に、提案された商品を活用した試食検討を行う。

20:30 第1日目終了予定／宿泊

八戸プラザホテル(八戸市柏崎1-6-6 TEL 0178-44-3121)

【第2日目 7月19日(木)】

6:40 ホテル発

7:00 八戸市営魚菜小売市場視察／朝食

八戸市には、4カ所の水揚げ施設を備え、漁港全体では水揚量 99,972 t（H28・H29 全国7位）、水揚金額約 233 億円（H28 全国5位、H29 全国9位）の実績を誇る青森県魚市場の中核市場となっている。

主要魚種は、日本一の水揚げ量を持つ生鮮イカ（するめいか、やりいか）の他、赤物類、鱈類、カレイ類等豊富で、最北のさば漁場で水揚げされる「八戸前沖さば」の評価も高い。

同市場は、昭和 28 年の開設以来、八戸市や周辺町村の台所としての役割を果たし、近年では、昔ながらの味わいのある雰囲気、魚を中心とした安くて新鮮な商品など、その魅力が観光面でも大いに注目を集めている。

9:30 小川原湖漁業協同組合訪問

小川原湖は、青森県東部に位置する県内最大の汽水湖で、湖周辺は豊かな自然に恵まれ、全国有数の生産量を誇るシジミはじめ、水揚量全国トップのシラウオ、ワカサギ等、多種多様な魚貝類が豊富に生息している。休漁日や漁期、漁獲方法等のルールを定め、資源管理に努めているほか、シジミはトレーサビリティシステムを導入・管理し、2017 年 12 月に「小川原湖産大和しじみ」として地理的表示保護制度（GI）に登録されている。

10:40 野辺地町漁業協同組合訪問

平成 15 年に全国で初めてトレーサビリティシステムを導入し、「ほたて生産出荷管理情報システム」として稼働を開始した。平成 19 年には「真なまこ生産出荷管理情報システム」を導入、平成 25 年には海水ろ過滅菌・冷却装置及び 20 トンの水槽を整備する等、鮮度と付加価値を重視した取組みにより業容を拡大。現在、生産体制殻付きの「活ホタテ」の取扱量は約 3800 トンで、積極的に首都圏への広域流通を展開している。

11:20 昼食(試食)・意見交換

昼食終了後、2 日間の産地見学交流会のまとめを行う予定です。

12:10 終了予定



2. 参 加 費

1名様 10,000円(税込)

7月18日(水) 昼食代、ホテル宿泊費 (シングルルーム)、

7月19日(木) 朝食代、昼食代として

*** 現地青森県までの諸費用は、含んでおりません。**

また、現地までのJR・航空券の手配等は各社でご対応をお願いします。

3. 募集人数 10名

※各社の経営者、仕入れ及び商品開発責任者の方のご参加をお願いします。

4. お申し込み方法

別紙の参加申込書に必要事項をご記入の上、FAX(03-3263-1325)にて
6月25日(月)までにお申し込みいただくと同時に参加費を指定口座にお振り込みくだ
さい(別紙口座参照)。

なお、お申し込み後の参加費のご返金は致しかねますので、予めご了承下さい。

FAX 03-3263-1325

(一社) 日本惣菜協会 増田宛

青森県 産地見学・商談交流会 参加申込書
(平成30年7月18日・19日)

ご参加者氏名	ご所属・お役職	携帯電話	E-mail
ヨミガナ			
ヨミガナ			

《お振込先口座》 口座名 一般社団法人日本惣菜協会 普通預金口座
みずほ銀行 麴町支店 口座番号1609401

参加費_____円は、_____月_____日に振込みます。
※振込手数料は貴社負担にてお願い申し上げます。また、振込名義人に貴社名をご記載ください。

御 社 名

お申込者氏名

ご所属・お役職

ご連絡先 (TEL) _____ (FAX) _____

(E-MAIL) _____

備 考: _____

請求書のご希望等がございましたら、ご記入下さい。
ご記入頂いたメールアドレスに請求書を発行するためのご案内をお送りします。

お問い合わせは、(一社) 日本惣菜協会 増田 (TEL03-3263-0957) までお願い致します。